

夢を求めて

『日本一周12,000Km自転車の旅』

—たぐさんの温かい心をいただいて—

はじめに

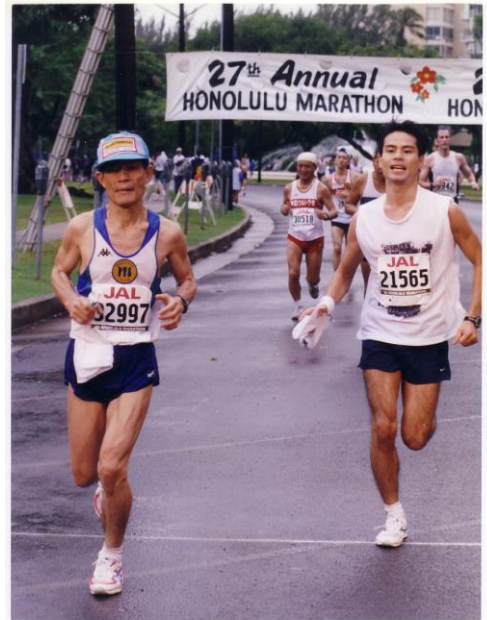
大学卒業の22歳から38年間勤めてきた教職の60歳定年退職を来年3月に控えた平成11年12月、私はホノルルマラソンに挑戦しました。それは、マラソンを日常の日課として走り続けてきた者の集大成のようなものでもありました。廿日市中学校の生徒たちは私の走る姿をいつも見ていましたし、体育祭では毎年3年生男子とともに1,500m走を走っていました。“継続は力なり”ということをも身を持って示したかったのです。勿論、教職員の理解と協力体制の上に実現できたことでもありました。

私は、折にふれて生徒たちに“夢を持って生きよう”と語りかけていました。平成12年初め定年退職を前にして、自分自身かねてより心に温めていたこれまで見たことのない美しい海の中を見てみたいという夢を実行しようと心に決めました。そして、その3学期の始業式で生徒たちにそのことにも触れた式辞を述べました。

その年、退職後の9月周防大島でスキューバダイビングのライセンスを取得し、その後瀬戸内海、日本海、沖縄の海で新しい世界、美しい海の生き物たちに出会い驚きと感動を体験してきました。

平成12年4月から5年間廿日市市佐方会館に嘱託として勤めまして、平成17年3月いよいよ公の仕事から完全退職することになりました。退職のおよそ2年前から考え始めていたことは、海とは別に今度は長い日数をかけて日本中を周ってみたいということでした。困難なことに挑戦してみたいという気持ちもありました。折りしもこの年光市のマラソン仲間迫口克己さんがマラソン日本一周の旅に出発されました。私は、車によるサポートができないので、荷物を持って自力でということになると自転車だということ、これを契機に退職後の私の夢は“自転車による日本一周の旅”だと決まりました。

退職がいよいよ本決まりになった年の平成17年2月その後ずっとお世話になる柳井市のサイクルショップヒロシゲさんに相談し、日本一周用のマウンテンバイ



The 27th Annual
HONOLULU MARATHON
December 12, 1999



周防大島・片添が浜

ク・TREK を購入しました。この日から、私の日本一周への夢はいよいよ実現に向けて広がっていきました。

出発への準備

初めてマウンテンバイクに乗って走ったのは2月13日でした。弘重さんと2人で室津半島の池の浦まで往復約30Kmを2時間かけて走りました。右手は緑の山々、左手は海と島々、風を切って走るのはとても気持ちよい。平地は20Km/h、下りは30Km/hで走るが、登りはギヤを下げても速度は極端に落ち、弘重さんに離されます。阿月あたりからは尻が痛くなる。池の浦公園で海を眺めながら色々話をして休憩。帰りは尻に加えて首の後ろ側がだるくなってきます。でも、車は少なく景色もよく、変化に富んだコースでとても走りよかったです。

この日の体験から、パット付きのタイツ・パンツを着用することにしました。

3月・4月は、個人でマラソンを走る日、自転車でツーリングする日とありました。日曜日には、ヒロシゲサイクルのゴールドボーイズの皆さんと一緒に室津半島をツーリングしました。弘重さんには、自転車のメンテナンスの仕方やパンクの修理方法等の手ほどきを受けました。そして、実際に自転車で日本一周や世界一周した人の手記を読みました。合わせて、自転車旅行の装備品や必要物品を相談・研究しながら準備していきました。

テントと寝袋は、豊兄ほか3人の弟妹から上等なものをお祝いにいただきました。前と後に縁のある日除け帽子は桂さんからプレゼントされました。

タイヤは、重さに耐えられ、かつ、よく走れるようにとロード用の1.95インチのものを装着しました。地図は、必要な情報がふんだんに掲載されているツーリングマップル全7冊を購入しました。

それにしても、泊を伴う自転車ツーリングの旅とはどんなものなのだろうか、とにかく体験してみることでと考えました。そして、5月の連休4泊5日のしまなみ海道周遊の旅に出ることにしました。

しまなみ海道周遊の旅

3日(快晴)、由宇町の自宅を出発。西区スポーツセンター満開のつつじの中で妻手作りのおむすびで昼食をとりました。広島フラワーフェスティバルを見学、ミス廿日市の幸野藍花さんに手を振ると笑顔がかえってきました。呉街道を進み、呉ポートピアランドにテント泊をしました。

4日(快晴)、呉港で自衛隊の艦船を見て、音戸大橋を周りました。安浦で魚の美味しい店「黒岩」で昼食をとり、安芸津・竹原と美しい瀬戸内海を満喫して、忠海の草間叔母宅に着きました。大歓迎を受け、日の出食堂で海鮮料理のご馳走をいただき、ゆっくり休みました。

5日(快晴)、三原の天倉宅により、尾道港から渡船で向島に渡りました。サイクリングロードを走り、



忠海・エデンの海



尾道渡船

因島大橋を渡り因島フラワーランドで昼食休憩し、つづいて、生口橋、多々羅大橋、大三島橋と渡り、伯方 SC の体育センターの軒下にテント泊をしました。

6日(雨曇雨)、大島大橋を渡り大島へ入りましたが、小雨が降り出し来島海峡大橋のもとにある「いきいき館」で早い昼食にしました。来島海峡大橋の3橋を渡ると再び本格的な雨となり、サイクリングターミナル「サンライズ糸山」で休憩、結局ここで宿泊しました。夕食は鯛釜飯でした。



因島大橋

7日(快晴)、波方町を通り、菊間町で遍照院にお参りし、風早の郷「風和里」で昼食“ぼっかけ丼”を食べました。松山三津浜港では全く偶然に大竹市のマラソン仲間上田広さんご夫妻に出会い歓談。ここからフェリーで美しい島々を眺めながら柳井港に渡りました。両腕、両脚の日焼けがひどかったけれど、元気に帰着しました。

※ しまなみ海道周遊のデータ

総走行距離	3 2 3.0 km	総走行時間	18 時間 2 7 分 0 2 秒
平均時速	1 7.5 km/時	最高速度	5 2.2 km/時

コースの研究と日程表の作成

6月・7月は自転車走行の練習とともに、日本一周のコースの研究と日程表の作成をしました。コースは、いつも海が身近に見えるようにと日本を時計回りに周ることにしました。そして、コースの登り坂や峠の高さなど道の状況と距離、つづいて見学地やユースホステル・民宿・ライダーハウスなどの宿泊所、さらにキャンプ場・道の駅などテント泊の場所、温泉・浴場、フェリーの時刻・所要時間などの下調べをしました。特に、宿泊所の予約は早くからはできないので、宿の名前・電話番号を控えておきました。そして、旅の日程表を作成しました。これらの計画作成に当たっては、弟靖夫の大学時代の先輩で私と同年齢の元高校教師米山巖氏の旅行記「日本一周自転車旅行」がとても参考になりました。

まずは四国一周をしてみよう

こうしながら考えたことは、自転車の練習をしたと言ってもわずか半年間です。経験のないものがいきなり完全な日本一周が本当にできるのだろうか。途中でリタイアしたのでは何にもならない。恥ずかしいことだ。まずは、近くの四国を一周してみよう。それができれば日本一周も可能であろう。ということでした。

そしてこの年、平成12年9月8日、四国一周自転車の旅に出ることにしました。四国一周は894 kmで、一日平均80 km進むとして11日間の計画を立てました。由宇の自宅を出発し、柳井港からフェリーで松山へ渡り、それから概ね沿岸沿いを時計回りに周ります。愛媛県→香川県→徳島県→高知県→愛媛県と周り、再び松山からフェリーで柳井港へ渡り、由宇の自宅に帰着するというコース設定です。泊まりは宿での泊5日、テント泊5日の予定としました。

1年目「四国一周」(平成17年9月8日～9月19日)

第1日 9月8日(木)曇り一時雨

由宇[自宅]～柳井港・(フェリー)・松山～西条市[石鎚温泉]

早朝7時20分出発。装備は、フロントバッグ・パニアバッグは後左右に・テントと銀マットは後キャリア上に取り付け、衣類・生活用品・キャンプ用品・工具類・地図ノート類・貴重品(カメラ等)を入れる。妻の見送りで、体調も自転車も快調。



神代から瀬戸内海を望む

国道188号線を柳井港に向かう。神代から瀬戸内海を望むと雲の切れ目から太陽の光が後光のように差し込んでいる。曇ってはいるが、海上数百mは透き通っていて、遠くこれから行く四国の山並みが見える。

8時過ぎ柳井港に到着、ここでご主人を出迎いの某婦人に写真撮影してもらう。とても親切で、旅のことも尋ねられる。

8時30分出港する。周防大島と情島の海峡には、釣りの漁船がたくさん出ている。潮の流れが速い。神島、横島、中島、小

市島を左手に見て、三津浜港に向かって進む。

10時55分三津浜港に到着。出発後500mメーターが作動せず、早速弘重勝彦さんに電話する。押し直すと作動し始めほっとする。松江橋から真直ぐに道後温泉に向かう。道後温泉本館前でタクシの運転手さんに写真撮影を頼む。親切によいアングルで撮ってくださる。道後温泉本館横で妻の持たせてくれて弁当を食べて休憩する。

まもなく出発しようと地図を見ていると、目の前にバイクに乗った青年が止まったので石手寺への行き方を尋ねると、“私もその方向へ行くから、ついて来てください”と親切にゆっくりのスピードで案内してくれる。感謝。

石手寺で四国霊場第51番札所のお札と朱印をいただき、安全・健康を祈願する。松山東部ののどかな雰囲気の中を進み、途中浄土寺にお参りする。国道11号線に入り小雨がぱらつき始めたが30分ほどで止みほっとする。この頃から自転車が重く、踏んでも踏んでも進まない。よく見ると右のブレーキが効くが、離しても元にもどらない。ワイヤーがおかしくなっているのだろうか。改善しなくてはと不安になる。面河方面への分岐三叉路を過ぎて急坂になる。桜三里の峠越えに入るのである。こいで登ることができず、自転車から降りて押して登る。汗が額・顔にびっしょり、体もびっしょ



道後温泉



浄土寺

りになる。約2 km押しで登ると平らになり河之内トンネルとなる。トンネルを抜けると下りになっており、約10 km桜三里を気持ちよく下る。

湯谷口を過ぎると西条平野、左右に黄金色の田園風景が広がる。小松街道を通り香園寺・宝寿寺にお参りをする。ここでバイクで旅行している60歳前後の男性の方から声をかけられる。バイクでのんびりと安上がりの旅をしているとのこと。この方、吉祥寺でも一緒になり旅のこと等いろいろ話す。

石鎚神社にお参りして、予定通り本日の宿泊所「石鎚温泉」に入る。自転車は許可をもらって玄関横の柱にくくりつけ鍵をかける。一人部屋だが広く、落ち着ける。早速、入浴、一日の疲れが取れるよう。夕食はレストランで各自注文ということでカツ丼を注文したが、なぜか、食欲が十分になくて、野菜とご飯と飲み物は全部食べたが、カツ丼は半分残す。部屋でビールとつまみで一杯やる。今日は本当に疲れた。



今日の会計について領収書を見ながら会計記録を付け、一日の記録日誌を書いて、地図を見ながら明日の行程の詳細予定を立てる。部屋の洗面台で洗濯し干す。

宿でうれしかったことは、フロントで自転車店（専門店）はないか聞いたところ、当該自転車店に電話して下さって、営業の日時を聞いて

下さったこと、玄関で自転車の鍵を落としたのを拾ってフロントに届けて下さった人、そして、私のだと思い連絡して下さったフロントの人。今日は道後温泉のバイクの青年等、多くの親切な四国の人々に出会えた素晴らしい日だった。

※ 今日のデータ 出発 7時30分 到着 17時00分

走行距離	71.76 km	走行時間	4時間03分39秒
平均時速	17.6 km/時	積算距離	71.76 km

第2日 9月9日（金）晴後曇

西条市 [石鎚温泉] ~ 香川県多度津町 [海岸寺YH]

6時起床、部屋から眺める景色は田園風景。7時朝食、ごはん3杯、よく食べれる。持参するお茶をお願いしていたところ、氷を入れて冷たくして下さる。氷も持って行ってはどうかと親切に下さり、またまた感激。

今日は、11時から営業のサイクルショップ「ウィンズ」でブレーキを見てもらうため、チェックアウトぎりぎりの9時40分に出発する。フロントで教えてもらった通りに「ウィンズ」に向かう。県道13号線に入り左側にある店を見落として1 km先まで行ってしまふ。引き返しながらか通行中の人に聞くと“すぐそこだ”と教えてくれる。約30分玄関で待っていると女性の従業員が2人出勤して来られる。まもなく店を開けて年上の女性の方が出てこられたので、ブレーキの変調を話すと、その方はブレーキハンドルのところを見て“ワイヤーがうまくはまってないよ”と言われ、きちんとはめてくれる。これで正常に作動できるようになり一件解決。自分の基本的なミスに大いに反省しながら、厚くお礼を言って出立する。丁度11時。

県道13号線を気持ちよく順調に東進する。新居浜市街地を通り、海岸回りの風景のよい壬生川新居浜野田線に入る。すぐに登りになりギヤを落として懸命にこぐが、勾配が急になり降りて押し登ることにする。ギヤを落としても乗って登れば8km/時~9km/時で登れるが、押し登ると5km/時前後となる。夕刻までに目的地に行けるかどうか心配しながら、暑さの中を汗をいっぱいかきながら押し登る。途中、工事中で昼休憩をしている労務員の方々から“頑張れ”と声がかかる。“あとどれ位登りますか?”と聞くと、“まだ大分登るよ”と言われる。“あーあ”と思いながら西の山の峠まで約1.5km押し登る。

峠でパンを1個食べて一息つく。しばらく平坦な道を進む。高いところを走るのは気持ちいい。まもなく、左眼下に海が開ける。海拔200mはあろうか、素晴らしい景色である。曲がった海岸線、所々砂浜、青い海、透き通った空を見ながら、風を切って、カーブしながら気持ちよく下っていく。仏崎の180°のカーブを曲がると、眼下に蕉崎の平野が広がる。思わず止まって写真撮影をする。ここから40km/時台のスピードで一気に下る。



蕉崎

国道11号線に入り伊予三島、川之江を過ぎる。13時半道の駅「とよはま」で昼食をとる。軒の名は「浜っ子茶屋」、ビール飲みながら<さつまうどん>を食べる。生ビールのうまいこと格別だ。さつまとは、魚をいただいた身のことで大変おいしかった。ボトルに氷水を入れてくださる。一の宮から県道21号線に入り観音寺に向かう。途中Y字路で左に進むところを右に約1km進み、変だなと気付き、高校生に聞くと左の道に入る行き方を教えてくれる。この男子高校生も“頑張ってください”と励ましてくれる。



浜っ子茶屋

琴弾公園では、観音寺と神恵院にお参りする。ここで、大阪から来たという若い

2人連れのお嬢さんに写真を撮ってもらう。四国を一周するというと驚いていた。ここで通りがかりのおじさんに、県道5号線を通り、国道11号線を上って海岸寺へ行こうと、道を尋ねると“それは大回りだ”“県道21号線を通って、詫間町に出て真直ぐに上れば、3分の2の距離で行ける”と親切に教えてくれて、さらに、“”県道21号線を行って仁尾町に入ったら、4つ目の信号を右に曲がって峠越えをしなさい。これが一番近いし、自転



神恵院

車には楽だ。いいか、4つ目の信号ですよ。”と親身になって教えてくださった。また、四国の人々の心の温かさにふれ心が熱くなる。仁尾町から詫間町への加齢峠はきつかったけれど、ずっとこいで登れて、本当に近い道で助かった。

海岸寺YHは朝夕とも食事はできないということで、詫間町のコンビニで夕食にビールとむすびと野菜サラダを、朝食にむすびと牛乳とヨーグルト、味噌汁カップを買う。あと、6kmだが大分疲れている。コンビニを出て2kmばかり進むうちに日が暮れてくる。津島の宮あたりで暗くなってきたのでライトを点ける。暗い中を走るのはやはり怖い。「海岸寺YH」に到着したのは18時40分だった。

宿では五人の方と相部屋。バイクで旅行中の二人、自転車で旅行の人は私ともう一人の若い人、あと一人は公共の乗り物で四国88箇所霊場への案内CDを作成しているという霊場についてのベテランの60歳代の方。夕食をしながら、親しく談話する。入浴後、洗濯。廊下に干す。ぐっすりよく眠れる。

※ 今日のデータ 出発 9時40分 到着 18時40分
走行距離 88.23km 走行時間 5時間24分07秒
平均時速 16.3km/時 最高速度 47.4km/時
積算距離 159.99km

第3日 9月10日(土)曇一時雨

香川県多度津町「海岸寺YH」～香川県津田町「琴林公園」(テント泊)



海岸寺YH

6時起床。3人の方は6時～7時に出発。今日は香川県引田町のキャンプ場を目的地と定め、ゆっくりと朝食し出発準備をする。大阪から来られたバイク旅行の方、とても親切で準備を手伝ってくれる内に、右後のパニアバッグがギヤに当たると言って、発砲スチロールの板をテープでキャリアにくっつけてくれる。大変ありがたく、感謝の気持ちになる。2人で写真を撮って、互いによい旅にと励ましあって南北に分かれて出発した。

県道21号線のさぬき浜街道を進む。雨がパラパラし始めて心配したが、まもなく上がる。中津万象園の前を通り丸亀市街を走る。まもなく瀬戸大橋が見えてくる。大橋をバックに写真撮影。下から見上げる大橋は本当に大きい。県道33号線に入り、坂出市街を走る。左手に五色台の山容が見えてくる。つづいて、国分寺に参拝する。この境内は広く落ち着いていて、心身の休養になる。

高松市内に入ると、繁華街の歩道は広く、車の心配なく走れる。ただ、人並みも多く、にぎやかで、おまけに歩道はレンガのような造りで走りづらい。つづいて県道155号線に入り、“讃岐うどん



讃岐平野のこぶの山々

店”を探しながら走る。右手にはこぶのような形の山々がいくつも並んでいておもしろい。まもなく、左手に屋島と五剣山が見えてくる。2年前に大竹市の田室さんの船で小豆島に走りに行った時に瀬戸内海から見た山容を、今反対側から見ているのだと思う。小守さん・田室さんどうしているかな。国道11号線に入り牟礼町の「手打ちうどん元祖」という店で、望み通り“讃岐うどん”を食べる。おいしかった。水やお茶も何杯も飲んだ。

志度寺を参拝する。どこに行ってもお遍路さんが参っておられる。弘法大師におすがりしたいという人の多いことに、あらためて日本人の心や生き方に思い至る。山門の大わらじは一見の価値あり。

つづけて、国道11号線を進む。天野峠を越えて、もう一つの峠羽立峠を登って行く。あと100mで峠という所でタイヤに異常を感じる。止まって降りて見ると後輪がパンクしている。

“あー、あ、これは大変。慣れないパンク修理をしなければならないか。”と思いつつながら、とりあえず道の端の柵に自転車を立てかけて、辺りを見回すが何もない。仕方ない作業に取り掛かろうかと、少し広い所に移動して荷物を取り外していると、登ってきたトラックが止まって、“どうしました？”と聞かれる。事情を話して、“自転車店まで乗せて行ってもらえるとありがたいのですが”と言うと、降りて来られて、トラックの荷台を見て、“いいよ”と言って自転車を積んでくれる。私も助手席に乗せてもらって、津田町の自転車店まで行ってくれました。運転手さんにお礼を言って、住所と名前を聞きましたが、“それには及びません”と言われ乗って行かれました。私は、とっさにトラックに書いてある会社名「(株)ユーミック」と住所をメモしました。

田口輪業さんで、詳細に診ていただいてきちんと修理していただく。特に、日暮れも近かったので本当に助かった。今日もまた、四国の方の温かい心に感謝でいっぱいでした。

道の駅「津田の松原」でテント泊することにする。ここは白砂青松100選に数えられる県立公園「琴林公園」である。園内を周ると、神社があり境内もきれいで、白砂青松の海岸が弓形につづいており、素晴らしい景色である。浜で写真撮影。東端には海水露天風呂のある宿泊施設「クアタラン」がある。「クアタラン」の側の松林の中にテントを設営する。外の洗面台でユニホームと靴下を洗濯。夕食は牛丼、ビールとつまみ。「クアタラン」で入浴。一日の疲れにはお風呂が一番だ。風呂から帰るとき、雨がポツポツし始める。急いで洗濯物を取り込む。



志度寺・山門の大わらじ



白砂青松100選の琴林公園

テントで、今日の記録と会計簿をつけて、明日の行程を確認して早めに床につく。夜間、小雨が降り、雨の音で度々目が覚めたが、テントは全く心配なかった。

※ 今日のデータ 出発 8時50分 到着 16時40分
走行距離 61.52 km 走行時間 3時間57分51秒
平均時速 15.5 km/時 最高速度 49.5 km/時
積算距離 221.51 km

第4日 9月11日(日)曇時々雨

琴川県津田町「琴林公園」～徳島県松茂町「月見ヶ丘テント村」(テント泊)
6時起床。雨はやんでいたが、外に出るとテントはびっしょり。松の枝葉から雨玉がポツポツと落ちてくる。公園内を散歩する。何人かの方が散歩しておられあいさつを交わす。朝食後、荷物を片付け、テントをきれいに拭いて収める。洗濯物は干すために自転車の荷物に広げてくくりつける。妻に電話をして8時40分出発する。地図をカラーコピーしてフロントバッグに取り付けている地図入れに挟む。



折野・播磨灘

国道11号線をひたすら鳴門へと走る。左手に播磨灘を見ながら平坦な道を潮風を受けて快調に走る。折野という景色のよい所で少し休憩した。昼食は新鮮な海の幸が食べられるという「びんび家」に決める。お昼前というのにすでに満員で、席が空くのをお待っている人もある。いろいろな魚を食べてみたいと思いき「おまかせ定食・1200円」を注文する。向かいの席のやや年配のご夫婦と話す。“ここは新鮮な魚を食べさせてくれるとてもおいしい店で、年中繁盛している。遠くからわざわざ食べに来る人も多い。私たちは徳島から来た”と言われる。本当においしい刺身だった。



びんび家

ここから少し行くと鳴門スカイラインに入る。ここで雨が降り出したので、少し雨宿りをして上がるのを待つ。ここで朝見さんから電話が入る。“今どの辺りかな？ 順調ですか？”ということで、これまでの状況を話し、礼を言う。気にかけてくれる電話、大変うれしい。少し小降りになったので走り始めるが1km進むとまた大降りになり、再び小郵便局の軒下に雨宿りしてレインカバーを取り付ける。約30分後、少し小降りになったので再出発する。すぐに登りになりギヤを落として懸命にこいで登る。雨と汗で顔がびしょびしょになる。この坂を登ると、まさにスカイラインのアップダウンのコースを風を切って走る。本当に爽快である。景色も素晴らしい。ところが、最も高所と思われる四方見橋の登りでは、土砂降りの雨で、風も強く、寒くてどうなることか



四方見展望駐車場より

と思った。登り切ると少し小降りになり、再び気持ちのよいツーリングとなる。所々登りがあるが、ほとんど下りと平坦で、本当に楽しい走りとなる。何と云っても、山と海と橋と風、来てよかったと思う。この辺りで雨も上がり、四方見展望駐車場で大パノラマを満喫する。内之浦が一望できる。ここからは下って亀浦港におりる。

少し進みT字路を左に取って鳴門公園に登る。大鳴門橋の威容は来島大橋に似ているが、こちらの方が主橋（柱）が大きく、橋脚も長く、がっしりしている。展望台から渦を見る。橋の下は速い流れに海水が渦巻いている。近くで見ればもっと豪快に見えるのだろう。大型船は渦をもるともせずに進んでいく。しばし景色を堪能して、東洋一のエスカレーターに乗っておりる。



大鳴門橋

鳴門公園を下り、県道11号線を南下する。平坦な海岸線で砂浜がつづく。小鳴門橋は自動車道と自転車・歩行者橋と2本あり、橋下からカーブした自転車道を登り、赤い色の自転車道を渡る。ここでも、地元の人に気を付けて登るように励まされる。鳴門市内のローソンで食事を購入し月見ヶ丘テント村に入る。



月見ヶ丘テント村

月見ヶ丘テント村では、今日の利用者は私一人だった。管理人さんから利用上の説明を受け、キャンプ代（600円）とシャワー代（100円）を支払い、大きな軒の下にテントを設営する。シャワー入浴、さっぱりする。夕食、洗濯、洗濯物干しをする。夜空は晴れてきたようだ。隣は徳島空港だが飛行機の発着はあまりないようだ。夜風が気持ちよく近く

を散歩する。9時30分就寝する。

※ 今日のデータ	出発	8時40分	到着	17時15分
走行距離	61.64 km	走行時間	3時間52分31秒	
平均時速	15.8 km/時	最高速度	51.3 km/時	
		積算距離	283.15 km	

第5日 9月12日（月）晴

徳島県松茂町「月見ヶ丘テント村」～徳島県日和佐町「ライダーハウス・ひるがお」
6時起床。洗濯物も一昨日の物は乾いている。朝食はサンドイッチと牛乳。太陽の光りが当たり始める。テントを撤収し、荷物をバッグに収納し、出発準備をする。今日は暑くなりそうなのでアームウォーマーを両腕にあて、目にはサングラスをつけ、洗濯物を荷物に取り付ける。

8時40分出発する。今切川を渡り徳島市に入る。にぎやかな市街を走り吉野川にさしかかる。大きい。吉野川大橋から見る河口は雄大で、向こう岸まで1 km以上はある。台風14号の影響か流木が流れ、水は濁っている。徳島市から国道55

号線を小松島市、阿南市と南下する。途中、義経橋という平凡な橋があった。義経、屋島攻めの時、暴風雨の中を紀伊水道を渡り阿波に上陸したということだが、この辺りに上陸し屋島に向かったのだろうか。

出発してから、ずっと平坦な道路で快調に走る。ただ、日差しは強く、汗がにじみ出る。コンビニでリポビタンDを飲む。今日はほとんど見学、観光することなく走り続ける。福井町という所で食堂に入る。とにかく暑かったのでビールと親子丼を注文する。50km走った後のビール1杯は何とも



吉野川大橋

いえない。生き返ったような心地だ。親子丼もおいしかった。2人のトラックの運



薬王寺・お遍路さんと

転手さんと話す。“日和佐まで自転車で行くのだが、国道55号線と県道25号線とあるが、眺望のよい県道25号線は自転車では無理でしょうか？”と聞くと、“県道25号線は景色はよいが、アップダウンが大きく、自転車では厳しい。”“国道55号線を行きなさい”と大変親切に話してくれる。そして、ここでも“気をつけて”と励まされる。

国道55号線・土佐浜街道の峠越えも、かなりのアップダウンがあったが、頑張っでこいで走り続ける。星越トンネル、しば〜らく行って久望トンネル、そして一の坂トンネルと抜けて日和佐町に入る。くだりは軽快に進む。町並みに入り、まもなく中心地と思われる交差点の右手に薬王寺があった。

石段を登りお参りする。ここでも何人かのお遍路さんに出会う。一人で歩いて88ヶ所を巡っておられるという60歳過ぎの男性の方に少しお話を伺い一緒に写真を撮らせていただく。“定年で退職して何かを達成したいということと、これまでやってこられたことのお礼をしたいので”ということで、含蓄のあるお話でした。薬王寺本堂前からは、日和佐の町が一望できる。美しい町である。

社務所で案内図をもらい、本日の宿泊所「ライダーハウス・ひるがお」までは約5分で到着した。ここは、ご夫妻2人で経営しておられ、とても温かく心配りが行き届き、ゆっくり休めるという感じである。今日の宿泊者は私一人で大きな部屋貸切りということである。朝食はあるが、夕食はしていないということで、ご



日和佐の町

主人の話の通り近くのスーパーに買出しに行く。自転車を借りていき、ご主人と一緒に飲もうと思い、ビール4本とよことまぐろの刺身、赤飯と海老天と筑前煮を購入する。帰って、ご主人にぜひご一緒にと言うので“今夜はあいにく、卓球の練習日で体育館へ行かなくてはならない”“残念です。申し訳ない”ということであった。本当に残念。

奥様と話しをしながら夕食。ここで、“四国の方はみなさんととても親切ですね。感謝しています。”と話しますと、“四国は昔から四国八十八箇所をお参りされる方々をお迎えするという風土があります。だから、小さい時から人々には思いやりを持って温かく接するということが身についているのです。”と話してくれました。私はこれを聞いて、本当にありがたいことだと思いました。それにしても、太平洋本場のまぐろの刺身、安くてしかも大変おいしかった。「よこ」というのは、「マグロのこども」のことだそうだ。

お風呂もゆったりと疲れがとれた。洗濯もする。ビール2本とお刺身をご主人様にと奥様に渡す。一日の記録を付けて、今日も疲れていたので早めに就寝する。

※ 今日のデータ 出発 8時40分 到着 16時30分
走行距離 69.25 km 走行時間 4時間11分52秒
平均時速 16.4 km/時 積算距離 352.40 km

第6日 9月13日(火)晴

徳島県日和佐町「ライガーハウス・ひるがお」～高知県室戸市「海の駅とろむ」

6時起床。ぐっすりとよく眠れる。疲れもとれた感じ。朝食は、キッチンとつながったログハウスの広い食堂で、パンにバター・ジャムと卵焼きに野菜をいただく。

8時出発。今日も洗濯物を荷物にくくりつける。まもなく、南阿波サンラインに入る。厳しいアップダウンが続くが頑張っていける。第一展望台で千羽海岸を遠く見下ろす。ここからは、高い位置でのアップダウンでいくらか楽に景色を楽しみながら走る。

曲がりくねった変化に富んだコースで苦しい時もあるが楽しい。上り坂では決まって汗が多量に出る。特に、眼鏡をかけている時は小タオルで拭こうとしてもとても拭きにくい。眼鏡の下の目の付近を拭こうとすると、眼鏡がとれそうになるし、運転もふらふらしそうで困る。

牟岐町に出てローソンでリポビタミンD飲む。小さなアップダウンの八坂八浜、海岸も出たり入ったりで景色の変化が美しい。まもなく、海南町から穴喰町に入り、海の駅

「穴喰温泉」で昼食にする。建物もモダンで内もきれいなしゃれた海の駅だ。疲れ



「ひるがお」のご夫妻と



千羽海崖

からか食欲も低いので、あっさりとした月見うどんにする。食後冷コーヒーを飲みしばし休憩する。



台風の防波堤

水床湾を左手に見ながら、まもなくサーフィンビーチに沿って走る。所々でサーフィンをやっている。この辺りから白浜に打ち寄せる白波、岩礁に砕ける白波の迫力は満点だ。時折、釣人も見かける。かなり走って日陰になった広い所で休憩する。ハイビスカスがきれいに咲いている。

豪快な海浴いの道、アップダウンの少ない快走路を気持ちよく進む。夫婦奇岩で小休憩。室戸岬まではあと十数k

mだ。さらに南下していくと台風に備えた高い石組みの防波堤のある部落を通る。疲れてきたがあと少しとペダルを踏む。三津の交差点であと4kmだと思って進んでいると、風が向かい風となり、しかも強く吹くようになり時速15km以下の速度となり、こぐのが本当にしんどい。右上前方の丘の上に高い塔が見え室戸岬はすぐそこだと思いがなかなか到達しなかった。疲れ切って弘法大師の白い像が見えてきた。そこに着くと腰を下ろして



室戸岬

休む。冷たい水をもらって飲む。おいしい。おばさんにお礼を言って室戸岬へ向かう。いくらか元気が出た。海岸に降りて岬の岩と岩波をしばし眺める。

あと3kmフェニックスのロードを北上し、海の駅「とろむ」でテント泊とする。ここの店には新鮮な魚があり、この沖でとれたという「とび魚」の刺身を造ってもらう。庭のテーブルで夕食をする。疲れがとれる。太平洋に沈む太陽を見ようと岸壁に立つが水平線上に雲がかかり、残念。冬には「だるま」として見えるそうだ。



海の駅「とろむ」

ここは、公園にもなっており、夜遅くまで何組かのカップルや家族が夕涼みや散歩に来ていた。夜空には星がいっぱい輝いていた。

夜中には、終始強風が吹き十分に眠れなかった。

※ 今日の日データ	出発	8時00分	到着	16時30分
	走行距離	86.20km	走行時間	5時間06分11秒
	平均時速	16.8km/時	積算距離	438.60km

第7日 9月14日(水) 晴

高知県室戸市「海の駅とろむ」～高知市「種崎千松公園」(テント泊)

6時起床。干していた洗濯物は風で大分乾いている。身辺整理、テント撤収後、そばとコーヒーで朝食。あし湯に入る。

8時20分出発。またまた強い向かい風でがっかりするやら辛いやら。15km/時前後で懸命に進む。道の駅「キラメッセ室戸」で鯨館を見学。昔の鯨漁の勢子

船や鯨の骨の標本等を見ることができた。ここの館員さんも親切で案内と説明をしてくれて、退館するときには冷氷のボトルを持たせてくださる。とてもうれしい。



キラメッセ室戸「鯨館」

今日の行程もほとんど平坦で風以外には楽に走れる。浴道に白いブーゲンビレアを見ることができた。向かい風も少しずつ弱くなってきたが、黙々とこいで進む。左手には太平洋の波が岩にぶつかり白波をあげる。羽根岬で振り返ると遠く室戸岬がかすんで見える。日差しはとても強い。安芸市に入ると向かい風はほとんどなくなる。御殿ノ鼻で白砂青松100選の琴ヶ浜を望む。ここで歩いて四国八十八箇所を巡っているという青年に会う。写真撮影。健闘を誓い合う。琴ヶ浜のサイクリングロードは松林の中を走る。道は日陰になっていて海・砂浜のそばで大変気持ちよかった。終点は「夜須サイクリングターミナル」。かなり疲れていて、ここで靴を脱いで昼食をとる。



琴ヶ浜

夜須町中心街を過ぎて、土佐くろしお鉄道の高架と平行に走る。丁度西日が高架の陰になって強い日差しを完全にさえぎってくれて涼しく走れる。これが約3kmつづいていてうれしかった。赤岡町横町で国道55号線と分かれ県道14号線に入る。物部川大橋を渡り平坦な広い道路を進む。海は近いが見えない。この辺りから向かい風が強くなる。千松公園まであと3kmとなって、ますます強くなる。13km/時前後でしか進めない。今日も終盤になって泣かされる。

まもなく浦戸大橋らしき姿が目に入り、やっと着いたなと思う。「種崎千松公園」に入ると、松林の中にいくつものテントが張っており、何人もの人がキャンプしている。水場に近い適当な場所にテントを設営する。



種崎千松公園

日も落ちてきたので、土佐名産センター「かつお館」に行く。締まっているので、これは困ったと帰ろうとしていると、裏から出てこられたご婦人が、“買い物ですか？”と聞かれる。“はい、土産を買いたいのですが”と答えると、“いいですよ。開けましょう”と言われる。助かった。よかった。思いながら、“すみません。ありがとうございます。”と言い、開けてもらった店に入る。

約20の団体・個人への土産なので30分近くかかる。お店の方と話していると“あなたは山口の方でしょう”と言われる。“そうです”と言うと、“言葉でわかります。私は広島にいたから”と言われる。“私は由宇町ですが、あなたはどこですか？”と聞くと、“宮島です。”と言われる。“私は宮島中に勤めていました。あなたは宮島のどなたですか？”と聞くと、“鳥居屋です”と言われる。“私は鳥居屋さんも奥様も娘の智子さんもよく知っている。鳥居屋さんは今町長さんで、智子さん

は教えていた。よく走る子で、よく一緒に走っていた。”と言うと、びっくりされて、“私は鳥居屋の妻の妹です。今晚早速電話します。”と言われる。日本は狭いものだなと思うとともに、こんな遠くで縁のある方に会えて、とてもうれしい気持ちになった。差し入れまでいただく。

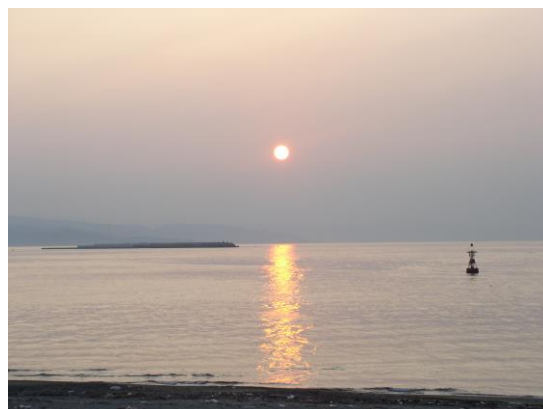
夕食後、洗濯し、体を拭く。今夜は風もなく、よく眠れた。

※ 今日のデータ 出発 8時20分 到着 16時00分
走行距離 82.25 km 走行時間 4時間45分02秒
平均時速 17.3 km/時 積算距離 520.85 km

第8日 9月15日(木) 晴

高知市「種崎千松公園」(テント泊) ~高知県窪川町「岩本寺YH」

5時起床。太平洋から昇る太陽を見るためだ。海岸の休憩所に行き、太陽の昇るであろう方向を見ながら朝食を摂る。何人かの人が散歩をしておられる。“おはようございます”と挨拶を交わす。なかなか太陽は昇ってこない。水平線や半島の上には雲がかかっているの、水平線からのご来光は望めないようだし、雲の上から出てくるので少し遅れるのだろう。午前6時ようやく雲の上に朱い色の太陽がのぞいてきた。早速シャッターを押す。太陽はゆっくりと少しずつ顔を大きく出してくる。それとともに朱色から赤く輝きを増してくる。6時10分には、まん丸い太陽が明るく輝いて海面に赤い光の帯を写す。昇り立ての真っ赤な太陽を背に写真を撮ってもらう。



種崎千松公園から見た朝日



桂浜花街道

今日も暑くなりそうだ。洗濯物を荷物にくくりつけ、アームウォーマーを着け、日焼け止めを塗って、8時出発する。早速、浦戸大橋を頑張ってこいで登り四方を見渡す。ここからは桂浜は見えない。車に注意しながら橋を下り桂浜花街道に入る。ここは高知海岸といい、約10 kmにわたってこの海岸に沿って県道14号線が走っている。右手は松林で沿道にはきれいに花が植えられている。太平洋を見ながら快走する。

朝から熱い太陽が照りつける。仁淀川を渡り、まもなく宇佐漁港に至る。朝食も早かったし、水分も補給のためローソンに寄り、おにぎり野菜ジュースを摂り、水ボトルを購入する。宇佐大橋の手前で右折、県道23号線に入る。変化に富んだ浦ノ内湾を満喫しながら楽しい気持ちでこいで行く。おだやかな湾内には養殖いかだがいくつも見られた。



内ノ浦湾

きつい坂を登り、鳥坂トンネルを抜けて、その後は爽快に

下り須崎市に入る。中心街はわりあい賑わっている。市街を抜けたコンビニで、地図のカラーコピーをし、リポビタミンDで体力補給、もなかアイスで一息し、水を購入する。水分の消費がすごい。11時30分、少し早い道の駅「かわうその里すさき」で昼食をとることにする。土佐名物、まぐろの「土佐丼」を食べる。最高にうまい。この道の駅は色々と珍しいものがある繁盛している様子。車もたくさん止まっているし、人も多い。

しばらく海岸沿いを進み、再び厳しい坂を登る。焼坂トンネルを抜けて、一息ついて下る。土佐久礼を過ぎると約6kmの登りが延々と続く。七子峠の標高は293mだ。ギヤを下げ、黙々とこぐ。絶対に降りずに登り切ると心に決める。ギヤをさげれば速度は遅いが、何とか持ちこたえられる。根気が続くかどうかである。1km毎にあと5km、あと4kmと表示があり、これが励みになる。途中、工事中の人に“あとまだ登りはどれ位？”と



つい聞いてし 道の駅「かわうそのさと」

まう。応えは、“まだまだ続くよ”だ。汗がほとばしる。拭くのも大変でサングラスははずす。6km/時~10km/時の速度で6kmの登り坂を登り切る。七子峠に着いた時には本当に“ばんざい”“ばんざい”という気持ちだった。Vサインを2つ作って写真を撮る。途中、V字谷の向こうに遥か太平洋を望むことができた。



七子峠

ここからはほとんど平坦な下りであった。田園風景の中を気持ちよく走る。およそ1

0km走り、道の駅「あぐり窪川」に着く。疲れたという感じ。名物「豚まん」を注文し、ビールを飲む。どちらも本当にうまい。「あぐり」というのは、農園という意味だそうで、窪川は農園の町で栄えているという。道の駅の建物も自然の木を使った清楚な感じである。あと4km「岩本YH」に向かう。

岩本寺へ参拝し、部屋に入る。個人部屋で、畳の感触のよい部屋であった。担当の方も親切で、気持ちよく対応してくださった。ゆったりと入浴し、夕食。その後宿内のコインランドリーで洗濯、廊下の物干し台に干す。部屋の外は土佐くろしお鉄道が走っていたが全く気にならなかった。一日の記録を書き、21時就寝する。



町の駅「あぐり窪川」

※ 今日のデータ 出発 8時00分 到着 16時30分
 走行距離 73.16km 走行時間 4時間37分29秒
 平均時速 15.8km/時 積算距離 594.01km

第9日 9月16日(金)晴

高知県窪川町「岩本寺YH」～高知県土佐清水市「足摺YH」

6時起床。境内を歩き、お遍路さんと話す。朝食はきちんとした和食のよい食事で、お遍路さんやご出張の方々と話をしながらいただく。

今日は、暑さ対策をしっかりと8時出発する。窪川は高い位置の盆地と思われる。徐々に下り、まもなく大きくカーブしてどんどん下っていく。そして、大きな谷の底を快走していき、佐賀町に入る。平坦な道になり、時々アップダウンしながら田園風景の中を走る。

土佐佐賀で太平洋沿岸に出て、土佐西南大規模公園となる。きれいに整備されており、雄大な太平洋も眺めながら順調に南下する。沿岸の出入りした岩場の波に洗われる景色もきれいである。井の岬手前で右に大きくカーブ、井の岬トンネルを抜け、入野へ向かう。浮津休憩所からは、



岩本寺YH

「入野松原」や遠く足摺半島を望むことができた。

くじらの里・道の駅「ビオスおおがた」からサイリングロードで入野松原を走る。しかし、このサイリングロードは松林の中にあるが砂浜に近く、道に砂が積もっていてタイヤが砂に取られて転倒しそうで、途中から公園内の舗装道路に移る。公園は整備されていて、こちらの方がきれいである。公園の南西部では広く「らっきょう」の栽培が行われていた。



四万十川

再び国道56号線に出て、ゆるやかに登り逢坂トンネルを抜けて四万十川のある中村の町に入る。四万十川東岸を南下して行く。四万十川は最後の清流と言われる通り、水は青くゆっくりと流れていた。ただ、台風14号の為か、木々の枝が集まったり、草木が流れ倒されたりしていた。四万十川大橋を渡り、国道321号線を3kmばかり行った所に田舎風の「田吾作」というどん屋があり、ここで昼食をとる。

ここを出て少しいくと、

右手に「大」の字を書いた山があった。大文字山だそうだ。旧暦7月16日に夏の終わりを告げる大文字の送り火が行われるということである。ゆるやかに登り長い伊豆田トンネルを抜け、徐々に下りながら田舎の風景の中を走り、加江川に沿って南下する。太平洋に出て、近くなった足摺半島を望む。太平洋の波に洗われる岩場の海岸が出入りして続いている。気持ちよく太平洋を眺めながら走る。まもなく、大岐海岸の松林と砂浜、浜に打ち寄せる白波が気分を盛り上げてくれる。しばらく行くと以布利に入る。



大文字山

ここで道を間違えて、峠を越えて半島を横切り西岸の旭町に至る。やむなく西側の国道27号線を南下し足摺岬に向かう。このコースのアップダウンは長さは



大岐海岸

ないが数が多く、相当にきついものであった。まだかまだかと思っても、行っても行っても岬までは遠かった。しかも細い道で、バスがぎりぎり通れる位の所も多かった。疲れてへとへとになって来るようだ。鶴の岬から多少平坦になったが、ここからもきびしいアップダウンがいくつかあった。岩森から足摺岬が見えてきた。四国最南端の岬と太平洋を望む。絶景だ。へとへとになって「足摺YH」に到着する。

荷物を置いて、徒歩で金剛福寺に参詣。ここでも多くのお遍路さんに出会った。展望台から足摺岬灯台と太平洋を眺める。沖には貨物船が航行している。椿の林を通過して灯台まで行き、さらに白山洞門まで下りる。みごとな奇岩洞門だ。上りはきつかった。



足摺岬

「足摺YH」で入浴。股間はさわると痛い。でも、走っているときは大丈夫。今日の宿泊客は、東京から来たという山本真理さん（26歳）と私の2人。夕食を共にする。彼女は国立大学で地学の勉強をしてきて、現在はコンピュータ関係の仕事をしている。新たな道を見つけたいと充電中とのこと。食後、洗濯機で洗濯。クーラーは有料ということで、用いなくて窓を少し開けて過ごした。今日の記録を書き、明日のコースを確認する。少し夕涼みをし、22時就寝する。

※ 今日のデータ 出発 8時00分 到着 16時20分

走行距離	93.73 km	走行時間	5時間26分27秒
平均時速	17.2 km/時	最高速度	47.4 km/時
		積算距離	687.74 km

第10日 9月17日（土）晴

高知県土佐清水市「足摺YH」～愛媛県愛南町「道の駅・みしょうMIC」

6時起床。洗面、身辺整理。洗濯物を取り入れ、荷物づくり。7時、山本さんとこれからの予定や将来のことなど話しながら朝食。食欲あり。彼女は9時前のバスで出発とのこと。お互い励ましあって8時出発する。今日は東岸を北上する。南国を感じさせる木々の間を抜けて行く。昨日よりはよほど楽な道で楽しく走れる。まもなく海岸に降りる。昨日通って来た大岐海岸を遠くに望み、太平洋の荒波が岩に砕け白波が



足摺ユースホステル・山本真理さんと



足摺半島東岸

飛び上がる。県道347号線を通り半島の西側に出る。右折して国道321号線を西に進む。こちら側は東岸と違って海は穏やかである。この道路は足摺サニーロードと呼ばれている。今日も快晴で、輝く海を眺めながら気持ちよく走る。途中、鬼の洗濯岩が現れる。珍しい風景だ。

まもなく、竜串公園に到着する。桜浜海水浴場のたもとに

自転車を置き、竜串海岸奇岩群を歩く。浜から奇岩群が海に出て並び、その向こうに朱と白色の足摺海底館が見える。海の青とのバランスがよく美しい景色だ。さらに進むと寝座頭や千畳敷などの名の付いた奇岩でいっぱい。波により柔らかい所が流れて出来上がったものということである。筋になったもの、こぶになったものなど珍しい風景だ。海は青く透き通っていた。つづいて足摺海底館に入館する。海底7mにのぞき窓が周囲にあり、自然の海底が目目の当たりにできる。ハタ、ブダイ、スズキ、カゴカキダイなど多くの魚たちを見ることができた。



竜串公園・奇岩群



竜串海岸を眺めながら321号線を進む。まもなくアップダウンが厳しくなり、長いトンネルや断続的に続くトンネルを抜ける。大津大橋を登り切ると叶崎、本当によく登って来た。展望よい。

今日も熱い太陽が照りつける。ここからの下りは風を切って爽快だ。4km走った後、海と別れゆるやかな上り坂を延々と進む。のどかな田舎の風景、道はよく整備されており、約10kmで道の駅「大月」に到着する。丁度12時、疲れてもいる。昼食は、唐揚げ定食に塩ラーメンとビール。すべてうまい。

ここから宿毛までは平坦な道で快調に走る。宿毛から愛南町までは海の景色が広がる県道7号線を行くことにする。中年のご婦人に道を聞くと、とても親切に“この次の信号を左に、つづいて2つ目の交差点をさらに左に折れるとよい。”“そこから4~5km行くと、右手に浄蓮小学校というのがあるよ”と教えてくれる。

県道7号線の前半は、小さなアップダウンはあるものの、1.5車線の快適な道で風景もきれいで楽しく走れたが、途中から急な上りと急なカーブが多くなり、なんとかこいで登っていたが、とうとうこ



叶崎

げなくなって歩いて押すことにする。急な上りがゆるくなったり平坦になると乗って、また急坂になると押して登った。上りがもう終わりかもう終わりかと思いつながら進んでいたが、ここからが大変でとんでもない長い上り坂が2つも3つもあって、これは自転車では通れるような道ではなかった。死にそんな思いで押して登りカーブを曲がると、さらに遠くの高い所に上り坂の道が見える。疲れているし、もうこらえてくれという気持ちだった。最後の力をふりしぼって登る。大浜という所が峠だった。こんな道を通るのではなかったと悔やんだ。ひと休みして、こんどは急な

下り坂をブレーキをかけながら一気に下って行った。あの上り坂の長時間のつらさは何だったんだろうという位に5分ほどで海岸までおりた。

ここで、愛南町の国道56号線との合流点まではもうすぐだろうと思っていたら、あにはからんやアップダウンのある道が4km～5kmつづき、とてもきつかった。



道の駅「みしょうMIC」

合流点の少し手前で、牛を引いているおじさんがいた。“農作業ですか？”と尋ねると、“闘牛の牛だ”と応えられる。これまで3連勝しているそうで、がっしりしていた。“もう年だから、今年はわからん”と言われる。そういえば、宇和島は闘牛の町であった。坂を下って国道56号線に入りほっとする。

ここから3km走り、道の駅「みしょうMIC」に到着した。店に入って店員さんに“自転車で旅行中です。テントで宿泊させてもらっていいですか？”と聞くと、快く“いいですよ”と言われ、軒の下にテントを設営する。向かいにあるコンビニで夕食を購入、庭に座って食事をする。今日は大変疲れていて食欲も減っている。洗面所で身体を拭き、洗濯をする。21時に就寝したが、ここは乗用車やトラックの休憩場所で深夜まで大きな

話し声が聞こえて、うつらうつらよく眠れなかった。

※ 今日のデータ 出発 8時00分 到着 17時00分
走行距離 91.09km 走行時間 5時間42分01秒
平均時速 15.9km/時 積算距離 778.83km

第11日 9月18日(日) 晴

愛媛県愛南町「道の駅・みしょうMIC」～愛媛県大洲市「大洲キャンプ場」

6時起床。向かいのコンビニで朝食におにぎりとお牛乳とお水を購入。今日も日差しが強そうなので、アームウォーマーを着け、日焼け止めクリームを塗り、サングラスをして、洗濯物を荷物に付けて8時10分出発する。

国道56号線を快調にスタート、まもなく山間に入りアップダウンしながら集落を抜ける。海岸に出ると美しい南予の海がまぶしい。内海トンネルを抜けて

「グリーンパークすのかわ」に至る。ここは、樹木に包まれた芝生ときれいな池のある美しいキャンプ場があり、カラフルなテントが数張り設営されていた。少し行くとカヌーを楽しむという子どもから大人までの団体に会う。“陸からは人が行けない所まで行ってみる”のだそうだ。由良半島の岬の方へ行くのだろう。“頑張っ”と逆に励まされる。

鳥越トンネルを抜けると再び海に出る。ここは穏や



グリーンパークすのかわ



真珠の養殖



宇和島市・闘牛像

と入って行く。バイパスには入らずに国道56号線を行き、宇和島市街のにぎやかな町に入る。宇和島駅で写真撮影。駅前の観光情報センターで宇和島の名物料理を聞くと、佐妻汁の店を教えてください。すぐ近くのお食事処「とみや」に入る。早速、佐妻汁とビールを注文する。ビールもうまい、佐妻汁も格別であった。佐妻汁とは、白身の魚をつぶし、みそと混ぜて麦ごはんにかけて食べる南予地方の名物料理である。この女将さんに国道56号線への入り方を聞き出発する。



佐妻汁

和霊神社の側を通り、まもなくバイパスと合流する。すぐに上り坂にかかる。前方に自転車旅行中の若者を見つける。徐々に追いついて声をかける。私“つらいね”、彼“元気ですね”、私“頑張ろう”、彼“もう死にそう”と会話。それから彼はずっと私の後をついてくる。上りの途中公衆電話があったので、私は休憩を兼ねて大洲YHに電話するために止まる。彼も止まり一緒に休憩し、話をする。彼は長井優君といい、岐阜から来た30代の青年である。やはり四国を一周しているとのこと。テントは積んでいるが、とても軽装である。着るものも2着だけ、その他の荷物はほとんどない。私は大洲YHに電話、彼はすぐに追いつかれるからと言って先に行く。大洲YHは、今は宿泊はやっていないという返事。それでは大洲旅行村かキャンプ場に泊まる以外にないと思う。そう言えば、彼は大洲キャンプ場に泊まると言っていた。



法華津トンネル

な道路も珍しい。さらに登り法華津トンネルに着く。疲労もピークだ。写真撮影。このトンネルを抜けて気持ちよく下って行く。

西予市に入る。中心街にあるコンビニに寄る。彼が先に着いて休んでいる。私も

かな入江になっていて、真珠の養殖が行われている。黒い丸い浮き輪が基盤の目条にいくつも整然と並んでいた。

嵐坂トンネルを抜け、津島町に入る。平坦な田園風景を通り津島大橋を渡る。津島市街のはずれのコンビニで、津島高校の男子生徒に松尾峠の状況を聞く。ゆるやかな上り1kmと聞き、少し安心する。ここでも“頑張っ”と励まされる。聞いた通りの上りで、割合楽に登り切り1700mのトンネルも乗って通り抜ける。

ここから風を切って下り、宇和島市へ

公衆電話を出る時には彼はもう見えなくなっていた。ゆるやかな上りをずっと続けてこいで登って行く。まもなく、登りながらトンネルが断続的にいくつもあり、その間から海が見える。法花津湾だ。こん

飲み物を飲みながら一緒に休み、さらにいろいろと話す。彼は2人の子どものいる父親で、十日間の休暇で四国を周っているとのこと。今日の宿泊はともに大洲キャンプ場でしようと、一緒に走ることにする。

ここを出発してから、徐々にゆるやかな上りがつづく。私が前で彼が後に続く。ギヤを下げたこいで登る。約8km登って鳥坂トンネルに至る。標高500mである。このトンネルも長い、自転車歩行者用のトンネルがあり、安心して抜けることができた。ここから、大洲市街までの約5kmはずっと下り。トンネルを抜けて少し下ると、左手前方はるか下方に盆地が開けている。こんなに登ってきたのかと驚く。本当に風を切ってという言葉にふさわしいスピードで下って行く。長井君もすぐ後をついてくる。約4km下りっぱなしに走って降りる。彼も“気持ちよかったですね”と言う。ここで、大洲キャンプ場への方向を確かめる。



大洲キャンプ場・長井優君と乾杯

市内に大きなスーパー「ショッパーズ大洲店」というのがあったので、2人でそれぞれ夕食を購入する。私は、夕食に牛網焼井・刺身(宇和島産の鯛とぶり)・フルーツ・ヨーグルト・お茶、朝食にサンドイッチと牛乳、ツーリング用に水、それとビールを購入した。地元の人にキャンプ場までの行き方を尋ねると近道を教えてくれた。大洲富士山(319.6m)の中腹にあり、今日も最後に苦しい思いをして、ようやく到着した。

テント設営。シャワー入浴をして、2人で乾杯をして夕食。しばし話し込む。今夜は中秋の名月だ。雲に出入りするきれいな満月を堪能した。22時就寝。

※ 今日のデータ 出発 8時10分 到着 17時00分

走行距離 84.95 km 走行時間 5時間36分25秒

平均時速 15.1 km/時 積算距離 863.78 km

第12日 9月19日(月)晴後曇

愛媛県大洲市「大洲キャンプ場」～松山…(フェリー)…柳井港～由宇[自宅]



大洲キャンプ場

6時起床。昨夜はよく眠れる。キャンプ場の朝は爽やかだ。身辺整理後、朝食を摂り、荷物を取り付け、最後にテントを撤収し自転車に取り付ける。8時10分出発。長井君は朝食がまだなので、少し前に出発しコンビニで待ち合わせることにした。キャンプ場で親切にしてくださった管理人さんから“またおいでなさい”と声をかけられる。山道を下り、肱川沿いに国道56号線に入る。しばらく行くと左にコンビニがあり長井君が待っていた。

今日も私が前で彼が後、平坦な走りよい道を快適に走る。少し行って左折し県道24号線に入る。ここからは肱川沿いに平坦な道をずっと走って行く。歩道も広く

走り易い。肱川はゆったりと流れ、目を楽しませてくれる。川の中流で網を張って川漁をしている風景や鮎釣りの人に出会う。のどかな風景である。約15kmの県道24号線を快調に下り長浜大橋が見えてくる。伊予灘への河口にかかる赤い色のきれいな橋だ。

ここから瀬戸内海沿いに走る国道378号線に入る。道は広い2車線である。海は比較的穏やかだ。長浜町の晴海という所でコンビニによりおにぎり2つとドリンクを買い少し休憩。地図のコピーを取る。ここからはしばらく海を楽しみながら快走することにする。この「夕やけこやけライン」はずっと平坦で海の眺めが素晴らしい。道の駅「ふたみ」まで約20kmを気持ちよく走る。ここで少し休憩。ここで長浜町のコンビニ「ローソン晴海」で地図ツーリングマップルを忘れたことに気付く。コピー機に置いたまま忘れて来たのだ。ここからまたしばらく走り山間に入る。ヘヤーピンカーブの上り坂を登り標高90mの銭尾峠で一息ついて、伊予市に下って行った。伊予市でローソンがあったので「ローソン晴海」に電話をしてもらうと、“地図はあります”ということで、住所と氏名を言って着払いで送ってもらうようお願いすると、気持ちよく“いいですよ。送ります。”という返事で、ここでも四国の方の親切さにありがたく感謝する思いでした。



肱川の川漁



肱川河口・長井優君と

と言いながら、県道22号線に入り順調に走る。雨の方は少しぱらついただけで、まもなく上がる。“どこか昼飯にしたいね”と言いながら走る。昼飯はうどんがいいということになり、うどん屋を探しながら走るが、いざとなるとなかなかない。そうして走っている内に松山空港の側を通り、松尾橋に至る。長井君は今日は道後温泉に入り、松山市のどこか適当な所にテントを張るということで、この松尾橋を右折して真直ぐ行くと道後温泉だと教える。しかし、彼は三津浜港で私を送ってから道後に行くと言って、一緒に三津浜港に向かう。

12時30分、三津浜港に到着。念願の四国一周を達成した瞬間だ。とてもうれしい。長井君も“おめでとう”と言ってくれる。港の食堂で2人で「じゃこ天うどん」を食べた。長井君は「素うどん」だったので、私のじゃこ天2個の内1個をあげる。彼、喜んで食べる。妻と朝見さんに四国一周達成の電話を入れる。外で記念撮影。一緒に走った長井君に感謝しながら



三津浜港・じゃこ天うどん

ら、彼の無事を祈ってお別れをする。

13時40分、三津浜港を出港する。船内では、一日の記録を書いたり、会計簿をつけたりする。疲れはほとんどない。島々の景色を眺めながら、つぎの日本一周のことを考える。大島大橋をくぐり、漁船とすれ違いながらフェリーは柳井港に着岸する。

ここから自宅までは17km、快調なスピードで家路を急ぐ。25km/時前後の速さで走る。天候は曇、今にも雨が降ってきそう。由宇崎付近でついに降り始め、平和橋で大降りになる。17時05分、大分濡れたが元気に帰着する。



周防大島と大島大橋

※ 今日のデータ	出発	8時10分	到着	17時05分
	走行距離	79.22km	走行時間	4時間19分10秒
	平均時速	18.3km/時	最高速度	41.6km/時
			積算距離	943.00km

四国一周を終えて

天候にも恵まれて、体調もよく、また四国の方々の温かい親切をたくさんいただいた素晴らしい12日間でした。はじめの3・4日間はお尻が痛かったけれど、その後はずっと快調でした。豪快な鳴門海峡の渦、室戸岬の強い風、高知千松公園で見た朝日、七子峠の登坂、大洲キャンプ場でのお月見等々感動がいっぱいでした。

そして、道後温泉でバイクで案内してくれた青年、香川羽立峠で自転車店まで乗せてくださったトラック運転手さん、とても温かくお世話になったライダーハウス「ひるがお」の渋沢さんご夫妻、若い希望を語ってくれた山本真理さん、2日間一緒に行動した長井優さん等々素晴らしい出会いがたくさんありました。

宿での泊5日、テント泊6日は今回としては丁度よかったと思う。一日の走行距離は平均80kmでしたが、見学も交流もできてこれも丁度よかったと思う。ただし、何十日もかける日本一周では宿での泊はもう少し増やさなくてはいけないと思う。一日の走行距離も平均80kmより少なくし、60km~80kmとするほうがよいと思う。

この体験から、日本一周はできるという一応の自信ができました。このたびの経験からいくつかの反省点がありますので、これからの半年間でそれらを改善して万全の態勢で来年の日本一周に臨みたいと思います。